

Accuphase

COMPACT DISC PLAYER

CDプレーヤー

COMPACT
disc
DIGITAL AUDIO

DP-410

取扱説明書



ご使用の前に、この「取扱説明書」と別冊の「安全上のご注意」をよくお読み
のうえ、正しくお使いください。お読みになったあとは、お客様カードと引きか
えにお届けいたします「品質保証書」と一緒に大切に保存してください。

このたびはアキュフェーズ製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
 ございます。

最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、最終の出荷にいたるまで厳重なチェックを行い、その過程と結果の個々の履歴は、製品全体の品質保証に活かされています。このような品質管理から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。

末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

3年間の品質保証と保証書

DP-410の品質保証は3年間です。付属の「お客様カード（保証書発行はがき）」に必要事項を記入の上、必ず（なるべく10日以内）にご返送ください。「お客様カード」と引きかえに「品質保証書」をお届けいたします。

*「お客様カード」のご返送や「品質保証書」の発行について、詳しくは25ページをご参照ください。

*「品質保証書」はサービスサポート時に必要となります。保証書がない場合は、全て有償修理となりますので、保証登録を行っていただき、届きました保証書を大切に保管してください。

製品に関するお問い合わせや異常が認められるときは、お求めの当社製品取扱店または当社品質保証部へ、直ちにご連絡ください。

尚、保証は日本国内のみ適用されます。

The Accuphase warranty is valid only in Japan.

マークについて

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人身事故の発生する可能性や製品に重大な損害を生じる恐れがあることを示しています。お客様への危害や、機器の損害を防止するため、表示の意味をご理解いただき、本製品を安全に正しくご使用ください。

警告

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があり、その危険を避けるための事項が示してあります。

注意

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が軽度の傷害を負う可能性や製品に損害を生じる恐れがあり、その危険を避ける為の事項が示してあります。

付属品をご確認ください

- | | |
|------------------------------|-------------------------------------|
| ● 取扱説明書(本書)..... 1冊 | ● 単3乾電池 2個 |
| ● 安全上のご注意 1冊 | ● プラグ付オーディオ・ケーブル(1m) (AL-10) ... 1組 |
| ● お客様情報の取扱いについて 1枚 | ● AC電源コード(2m) 1本 |
| ● お客様カード(保証書発行はがき) 1枚 | ● USBユーティリティ(CD) 1枚 |
| ● 目隠しシール 1枚 | ● USBユーティリティ・セットアップガイド 1冊 |
| ● リモート・コマンダー RC-110 1個 | |

目 次

付属品を確認します	表紙裏頁
1. 安全上必ずお守りください	2, 3
△警告	2
お使いになる前に	2
△注意／使用上のご注意	3
本機で再生できるディスク / 再生できないディスク	3
2. 接続図	4
3. 各部の名前	5
フロントパネル、リアパネル	5
4. 各部の動作説明	6 ~ 11
フロントパネル	6 ~ 8
リアパネル	9, 10
リモート・コマンダー RC-110	11
5. リモート・コントロール	12
使用法/電池について	12
6. ご使用方法	13 ~ 20
通常のCDプレーヤーとして使用する場合	
CD演奏の基本操作	13
いろいろな演奏方法	
途中で演奏を中止するには	14
演奏を直ちに開始しないとき	14
トラック(曲)を指定して演奏	14
トラック(曲)の途中の演奏したい部分を探す	15
リピート(繰り返し)演奏	15
タイマー演奏	16
外部機器を接続してデジタル・プロセッサ一部を活用	
デジタル入力でCDトランスポート、MDなどを再生	17
デジタル・レコーダーで録音・再生をする場合	18
デジタル・ヴォイシング・イコライザー DG-58の接続	19
DG-58をアナログ接続する場合	20
7. 保証特性	21
8. 特性グラフ	22
9. ブロック・ダイヤグラム	23
10. 故障かな?と思われるときは	24
11. アフターサービスについて	25

安全上必ず
お守りください接
続
図各
部
の
名
前各
部
の
動
作
説
明リ
モ
ー
ト
・
コ
ン
ト
ロ
ー
ルご
使
用
方
法保
証
特
性特
性
グ
ラ
フブ
ロ
ッ
ク
・
ダ
イ
ヤ
グ
ラ
ム故
障
か
な
?
と
思
わ
れ
る
と
き
はア
フ
タ
ー
サ
ー
ビ
ス
に
つ
い
て

1. 安全上必ずお守りください

ご使用の前にこの『取扱説明書』と別冊の『安全上のご注意』を良くお読みの上、製品を安全にお使いください。

警告

■電源は必ずAC(交流)100V、50Hz/60Hzを使用する。

- AC100V(50Hz/60Hz)以外で使用すると、感電や火災の原因となります。

■電源コードは取り扱いを誤ると、感電や火災の原因となり危険です。

- 付属または当社指定の電源コード以外は絶対に使用しない。
- ぬれた手で電源プラグを絶対に触らない。
- 電源コードの上に重い物をのせたり、本機の下敷きにしない。
- 電源コードが傷んだら、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。

■密閉されたラック等には絶対に設置しない。

- 通風が悪いと機器の温度が上がり、火災や故障の原因となります。

■放熱のため製品の周辺は他の機器や壁等から充分間隔(10cm以上)をとる。

■機器の上に水などの入った容器(花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など)、新聞紙、テーブルクロスなどを置かない。

■火災又は感電を防止するために、雨がかかる場所又は湿気のある場所では絶対使用しない。

■キャビネットやボトム・プレート(底板)は絶対にはずさない。

- 内部に手などで触れると感電や故障の原因となり、大変危険です。

■脚の交換は危険なので行わない。

- 取り付けネジが内部の部品に触れると、火災や感電、故障の原因となります。

■次の場合には本体の電源スイッチを切り、必ず電源コードをコンセントから抜く。安全を確認後、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。

- 製品に水や薬品などの液体がかかった場合。
- 内部に異物(燃えやすい物やヘアピン、釘、硬貨など)が入った場合。
- 故障や異常(発煙やにおいなど)と思われる場合。
- 落としたり、破損した場合。

*上記の各項目に対して、電源スイッチをOFFにしただけでは、本機への電源供給が完全に遮断されません。そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。必ず電源コードをコンセントから抜いてください。

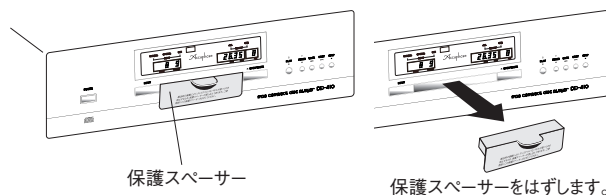
*万一の場合、電源コードをコンセントから容易に外せるように、コードの引き回しやコンセント周りの環境を整えてください。

■入・出力端子や、AC電源コネクタ、電源プラグには接点復活剤や導電剤などは絶対に使用しない。

樹脂部が経年劣化で破損したり端子部がショートをおこし、感電や火災あるいは故障の原因になる事があります。
(接点復活剤、導電剤使用による不具合は保証外となります。)

お使いになる前に

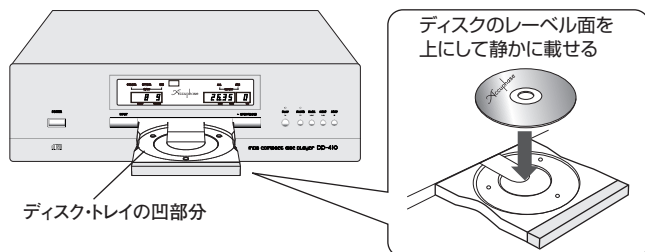
輸送時の振動により、ディスク・トレイとパネルが傷つくのを防止するため、保護スペーサーが差し込んであります。ご使用前にこの保護スペーサーをはずしてください。



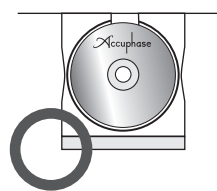
※アフターサービス等の輸送時にも使用しますので、はずした保護スペーサーは保存しておいてください。

ディスクがはみ出さないことを確認してトレイを閉じます

ディスク・トレイの円形のくぼみ(凹)部分から《はみ出さない》ように、ディスクを中央に押しつけず静かに載せてください。



トレイ円形凹部分から《はみ出ない》ように中央に載せる。



トレイ円形凹部分から《乗り上げ》ないように注意する。



- 凹部分から《はみ出して》載せると、ディスクに傷を付ける恐れがあります。
- ディスクを凹部分から《はみ出して》、乗り上げた状態のままトレイを閉じると、挿入口で噛み合い、トレイが途中で動かなくなる恐れがあります。

注意

◆ディスク・トレイが閉まるとき、挿入口に指を挟み込まれないように注意する。

- 挟み込まれると、けがや故障の原因となります。
- 万一異物が挟まると、トレイを閉める力が弱まり、約5秒後に自動的にトレイが開きます。

■設置場所について

必ず水平な場所に設置する。次のような場所は、故障や事故の原因となります。

- 通風が悪く、湿気やほこりの多い場所
- 直射日光の当たる所
- 暖房器具の近くなど温度の高い所
- 極端に寒い所
- 振動や傾斜のある不安定な場所

また、他の機器と直接重ねての使用は絶対に避ける。

チューナーやテレビ、DVDレコーダー等から離して設置する。

- 近くに置くと雑音や映像の乱れが生じることがあります。(特に室内アンテナの場合は注意。)
- アンテナ線と本機の電源コードや入・出力コードを離して設置してください。

■市販のレンズクリーナーについて

本機は埃が入り難い構造となっていますので、レンズクリーナーの使用はお勧めしておりません。

■レーザー光源をのぞき込まない。

レーザー光をのぞき込むと視力障害の原因となります。

■入・出力コードを接続する場合は、必ず各機器の電源を切ってから、確実にこなう。

- RCAタイプのピンプラグをジャックから抜き差しするときは、一瞬(一)側が浮いた状態になるため、大きなショック・ノイズを発生し、スピーカーを破損する原因となります。

■POWERスイッチは、各機器が正しく接続されるまで入れない。

■電源スイッチのOFF直後、10秒以内に再びONしない。ノイズ発生などの原因となることがあります。

■長期間使用しないときは、安全のために電源プラグをコンセントから抜く。

使用上のご注意

■本機で再生できるのは、CDの標準規格に合致したディスクだけになります。ディスクには必ず、CDマークが印刷されていますので、使用前にCDマークの有無をご確認ください。また、ディスク・パッケージの内容をよくお読みください。



本機で再生できないディスクの例

- CD-ROM ● DVD ● SA-CD ● DVD-Audio ● DSDディスク
- CD-RW ● dts-CD ● MP-3 ● BD (ブルーレイ・ディスク)

※誤って使用するとノイズを発生する場合があります。

※CD EXTRA、CD-Rなどは録音状態によっては正常な動作をしない場合があります。

■CCCDの再生は、動作・音質を保証できません。

- コピー・コントロールCD (CCCD) など『著作権保護技術付音楽ディスク』は、現在のCD規格に準拠していない特殊ディスクのため、当社のCD再生機器による再生の動作・音質は保証できません。
- CCCD等の詳細につきましては、ディスクの発売元にお問い合わせください。

■光学系ピックアップの結露について

冬期、暖房のきいた部屋の窓ガラスに水滴がついて曇ってしまう現象、これを結露といいます。CDプレーヤーでも次のようなときに、ピックアップ・レンズに結露することがあります。

- ストープなど、暖房器具をつけた直後
- 湿度が高く、湯気が立ち込めている部屋に置いてあるとき
- 冷えた戸外や冷房のきいた部屋から急に暖かい部屋に持ち込んだとき

■CD-Rなど表面に印刷可能な加工処理がされているディスク本体内部に貼り付き、取出しができなくなる事がありますのでご注意ください。

結露してしまったら

結露すると、光学ピックアップがディスクのデジタル信号を読み取ることができず、プレーヤーが正しく動作しなかったり、まったく作動しなくなります。

このような場合、ディスクを取り出して電源を入れておけば、約1時間ほどで露が取り除かれ、正常な作動をするようになります。

～ディスクの取り扱いについて～

- 直射日光が当たる場所や、高温多湿のところには置かないでください。
- 演奏終了後は、ホコリ、キズを避けるため、必ずケースに入れて保存してください。
- レーベル面の反対側が信号読み取り面です。持つ場合には、信号面をさわらないようにしてください。指紋やホコリなどの汚れは音質劣化の原因となります。
- ディスクのお手入れの場合は、柔らかい布で内側中心から外側へ軽く拭いてください。
- ベンジン、レコードクリーナー、静電防止剤などは、ディスクを傷めますので使わないでください。

お手入れ

- お手入れの場合は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 本体のホコリやゴミ、指紋等汚れの拭き取りには「柔らかい布」を使用してください。
- ベンジン、シンナー、油、ワックス等を使用してお手入れは、表面を変色させたり、傷つけたりしますので使わないでください。
- ディスクトレイ内のお手入れにアルコール類を使用しないでください。アルコールで拭くとディスク・クッション(3個)が剥れディスクを傷つけるおそれがあります。

2. 接続図

注意：接続するときは、必ず各機器の電源を切る。

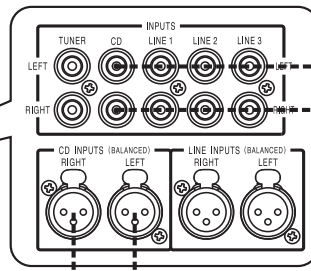
- 注意**
- アナログ出力の接続はオーディオ・ケーブルを使用し、LEFT (左)、RIGHT (右)を正しく接続してください。
 - 同一機器同士でバランス用とライン用の両ケーブルを同時に接続して使用しないでください。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。
 - デジタル機器との接続は、同軸デジタル・ケーブルまたは光ファイバーを使用します。
 - DAC内蔵アンプ(デジタル入力用のオプションを増設したアンプ等)に、デジタル同軸出力とアナログ出力を同時に接続しないでください。

アナログ出力の接続

プリアンプまたはプリメインアンプのCD、LINE、AUXと表示のある端子に入力してください。



プリアンプ
また
プリメインアンプ



ライン入力

バランス入力

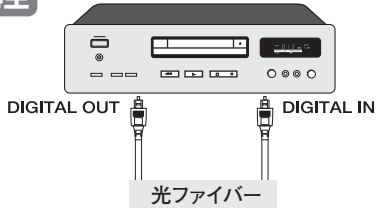
※オーディオ・ケーブルは、シールド線(バランス用は2芯シールド)を使用してください。

プラグ付オーディオ・ケーブル(付属)

デジタル録音と再生

(18ページ参照)

デジタル・レコーダー

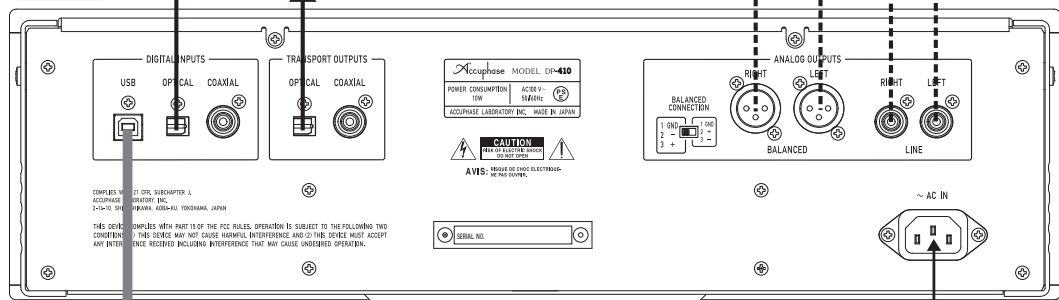


光ファイバー

バランス用ケーブル

どちらか一方にしてください

DP-410



COMPRES W
ACCUPHASE
2114-01 SHI
MURAKAMI, AOSHIMA-KU, YOKOHAMA, JAPAN

THIS DEVICE
COMPLIES WITH PART 15 OF THE FCC RULES. OPERATION IS SUBJECT TO THE FOLLOWING TWO
CONDITIONS: (1) THIS DEVICE MAY NOT CAUSE HARMFUL INTERFERENCE AND (2) THIS DEVICE MUST ACCEPT
ANY INTERFERENCE RECEIVED INCLUDING INTERFERENCE THAT MAY CAUSE UNDESIRABLE OPERATION.

Accuphase MODEL DP-410
POWER CONSUMPTION: 10W ACER M-
SHARING
ACCUPHASE LABORATORY INC. MADE IN JAPAN

CAUTION
AVIS: RISQUE DE CHOC ELECTRIQUE-
NE PAS TOUCHER

SERIAL NO.

PC
(パーソナルコンピューター)

USB
タイプBケーブル
(2m以内)



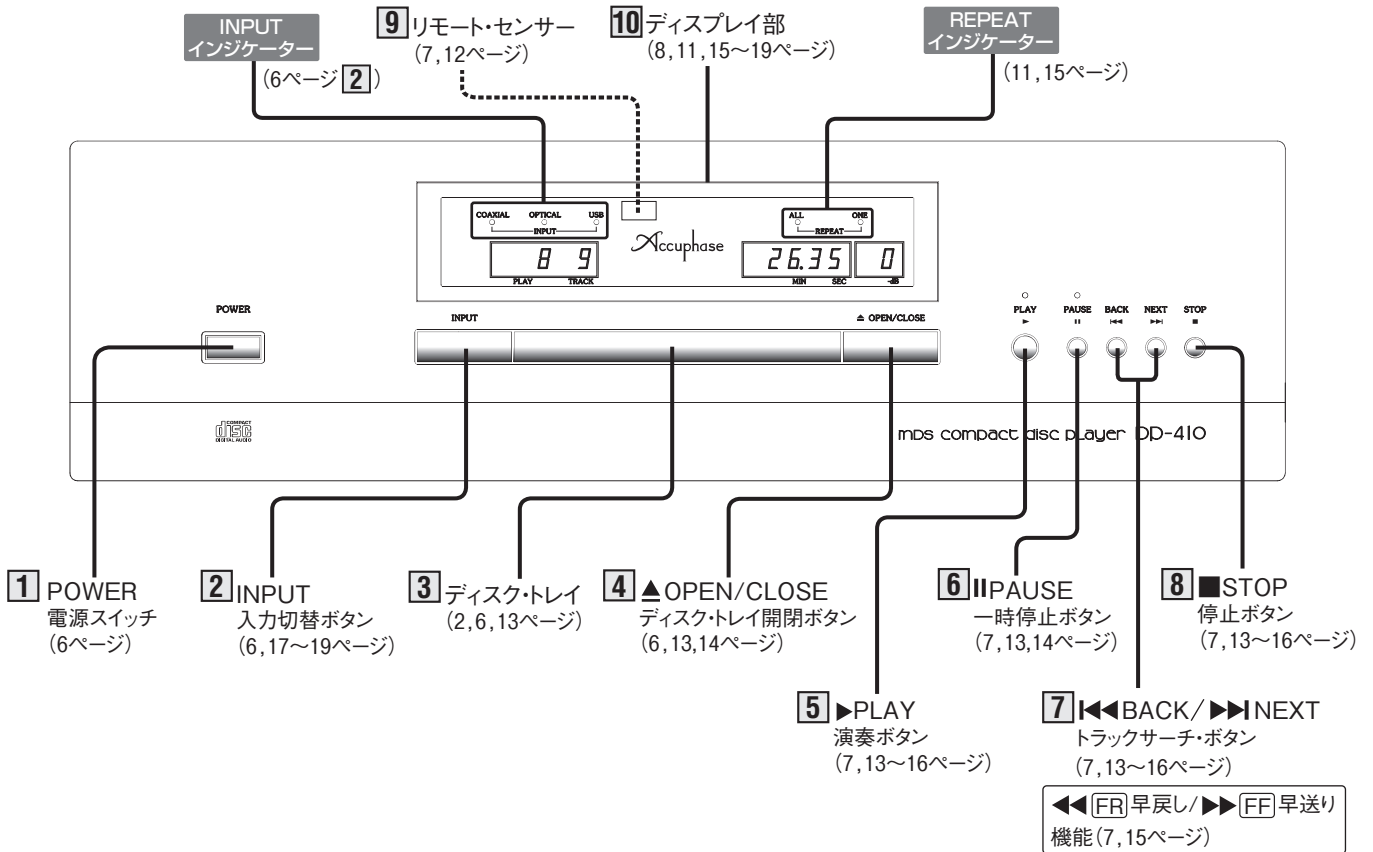
- USB端子を使用するには本機に付属するUSBドライバソフトウェアをPCにインストールする必要があります。詳しくは別紙のUSBユーティリティ・セットアップガイドを参照してください。
- 最新のUSBドライバソフトウェアは当社ホームページ <http://www.accuphase.co.jp/> 上でご案内いたします。
- USB端子に接続したPCの設定や操作方法はPCの取扱説明書をご覧ください。
- USBにはバスパワー(200mA以上)が必要です。
- USBケーブルは2m以内を推奨します。

AC電源コード(付属)
AC100V, 50/60Hz

3. 各部の名前

詳しい説明は、各項目()内のページを参照してください。

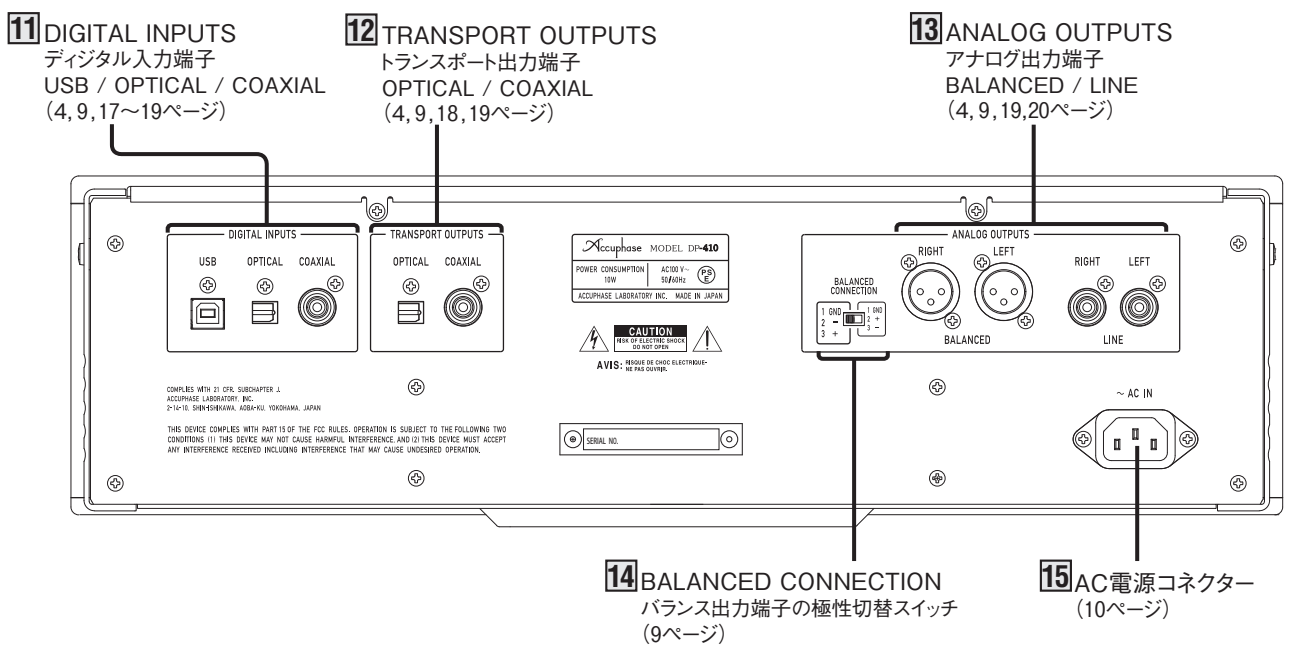
フロントパネル(前面)



接
続
図

各
部
の
名
前

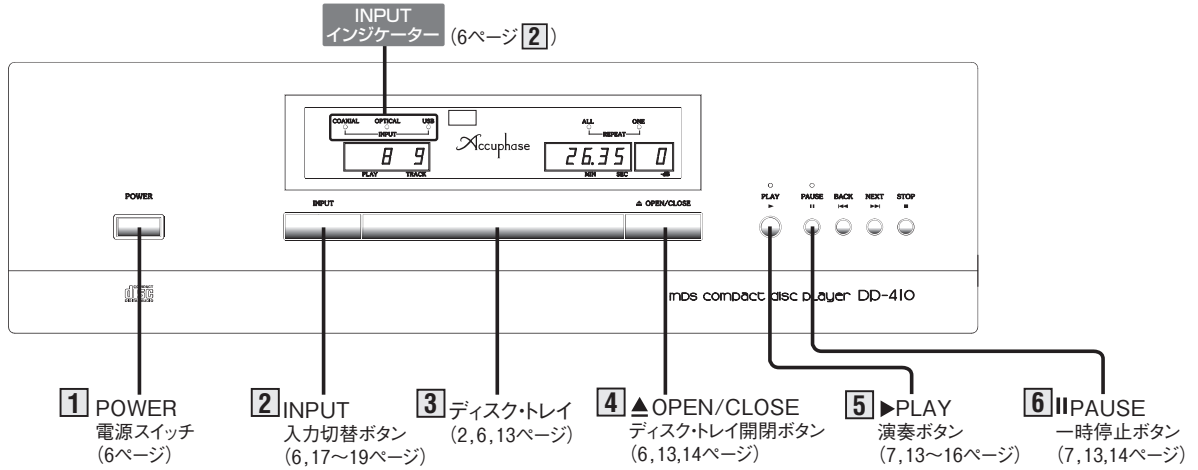
リアパネル(後面)



4. 各部の動作説明

- 詳しい使用方法は()内のページを参照してください。
- 本説明書では、「トラック」と「曲」を同義で扱っています。

フロントパネル(前面)



1 POWER — 電源スイッチ

電源を入れる

スイッチを押すと電源が入ります。 **スイッチ：■**

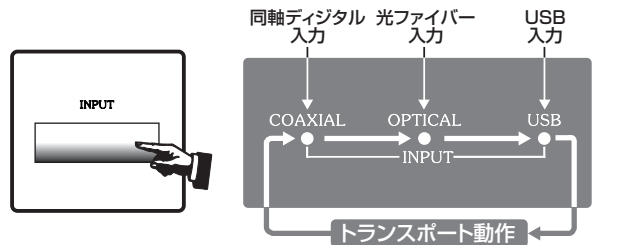
電源を切る

再びスイッチを押すと電源が切れます。 **スイッチ：■**

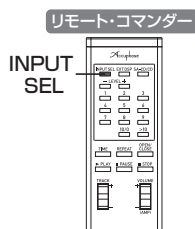
- 電源スイッチをOFFにすると、外部機器入力ポジション、出力レベル、リピートの“ALL”と“ONE”を除いて、それまでに設定された機能は解除されます。
- 電源スイッチをOFF直後、10秒以内に再びONしないでください。ノイズ発生などの原因となることがあります。

2 INPUT — 入力切替ボタン (17~19ページ)

押すたびに、プロセッサ部への入力信号が切り替わり、ディスプレイ部のLED点灯で確認します。ただし、ロックアウト中は点滅します。ロックインするとサンプリング周波数(kHz)を4秒間表示します。(8ページ)
LEDが全て消灯しているときは、トランスポート動作になります。



* 本機のCD演奏中にプロセッサ外部入力に切り替えても、本機のCD動作は継続します。但しボタンを切り替えて、外部機器が接続されていないときや入力信号をロックインしないときは、アナログ出力が途切れます。



3 ディスク・トレイ (2, 13ページ)

OPEN する時

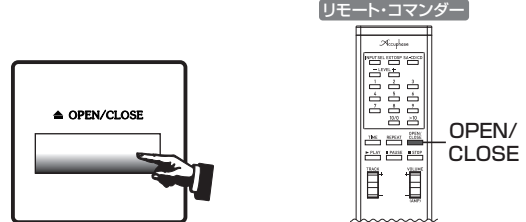
- 4 ▲ OPEN/CLOSE ボタンを押すと手前に出てきます。

CLOSE する時

- 4 ▲ OPEN/CLOSE ボタンをもう一度押す
- ディスク・トレイ前面を軽く押す
- 5 ▶ PLAY ボタンを押すと閉じ、ディスクがある場合は演奏を開始します。
- 6 || PAUSE ボタンを押すと閉じ、ディスクがある場合は1曲目の演奏開始待ち(PAUSE)の状態になります。

注意：トレイを出した状態で電源をOFFし、再び電源を入れるとトレイが閉まりますのでご注意ください。

4 ▲ OPEN/CLOSE — ディスク・トレイ開閉ボタン (13, 14ページ)



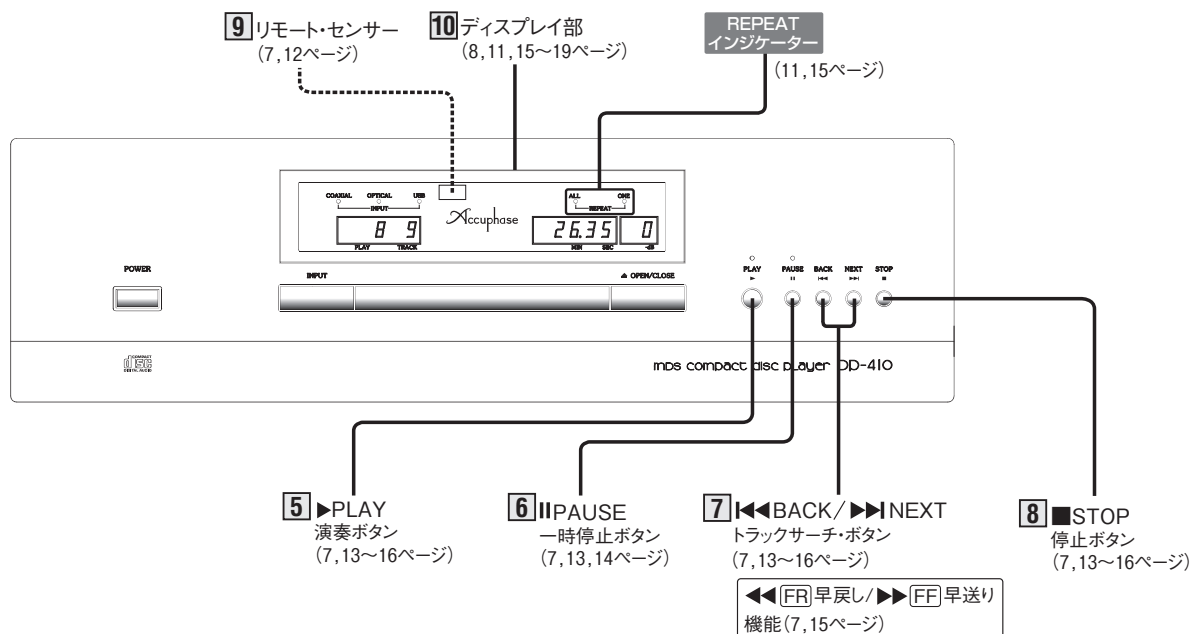
OPEN する時

押すとディスク・トレイが出てきます。

CLOSE する時

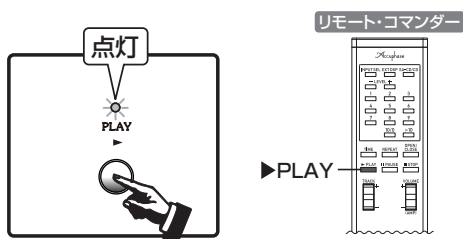
もう一度押すとトレイが閉じます。

フロントパネル(前面)



各部の
動作説明

5 ▶PLAY (演奏) ボタン (13~16ページ)



押すとLEDが点灯し演奏を開始します。
 PAUSE(一時停止)から演奏を再開するときにも押します。

◀◀BACK トラックサーチ・ボタン

演奏中や一時停止の状態、1回押すとそのトラックの頭に戻ります。続けて押すと順次、前のトラックの頭へ飛びます。

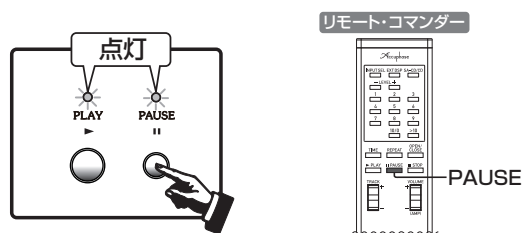
▶▶NEXT トラックサーチ・ボタン

1回押すと次のトラックの頭へ飛びます。続けて押すと順次、次のトラックの頭へ飛びます。

0.5秒以上押し続けると (11, 15ページ)

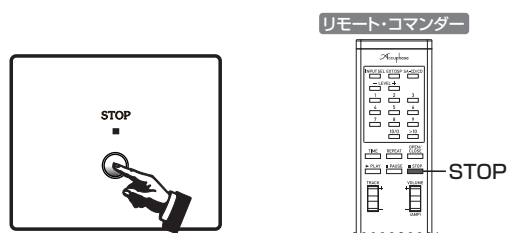
◀◀FR(早戻し)/▶▶FF(早送り)動作となります。

6 ||PAUSE (一時停止) ボタン (13, 14ページ)



PLAY中 押すと演奏を一時停止します。
 PAUSE(一時停止)中に押すと演奏を再開します。

8 ■STOP (停止) ボタン (13~16ページ)



PLAY(演奏)中やPAUSE(一時停止)中にこのボタンを押すと演奏停止になります。

再度5▶PLAYボタンを押しても、停止したところからの演奏はできません。

7 ◀◀BACK / ▶▶NEXT トラックサーチ・ボタン (13~16ページ)



9 リモート・センサー (12ページ)

リモート・コマンダー RC-110の赤外線信号の受光部です。リモート・コマンダーを使用するときは発光部をここに向けてください。

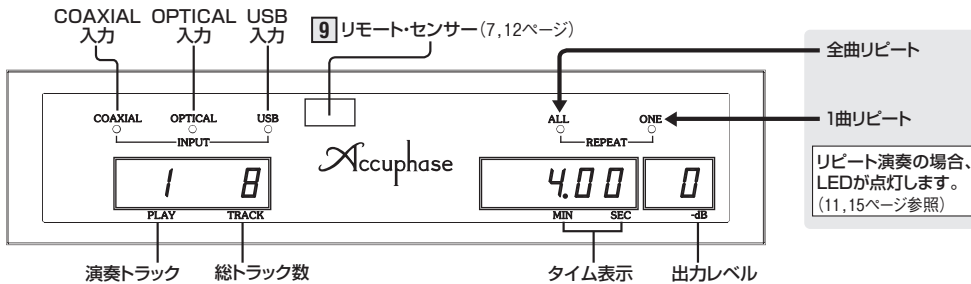
10 ディスプレイ部 (11, 15~19ページ)

外部入力の表示、トランスポート動作、リピート、演奏トラック、総トラック・曲中経過・残量時間、トータル残量・経過時間、サンプリング周波数、レベルの表示を行います。

ディスプレイ上の数字は説明用の表示例です。

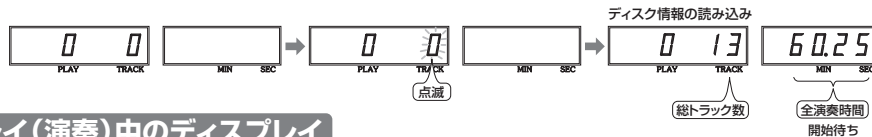
*テキスト情報の表示はできません。

CDプレーヤー動作 ② [INPUT] ボタンまたは ⑩ [INPUT SEL] ボタンで、「CDトランスポート動作」を選択 (6, 13ページ参照)



ディスクを入れて、▲ [OPEN/CLOSE] ボタンを押す

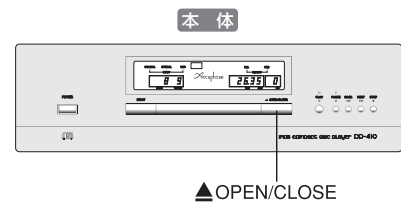
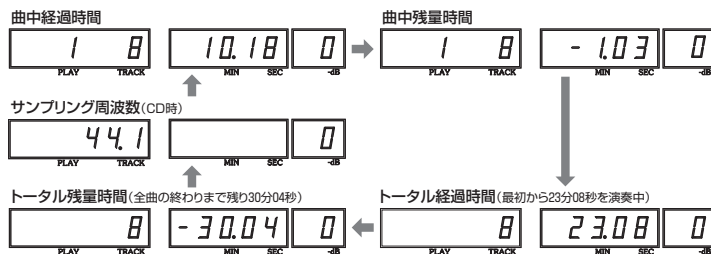
▲ [OPEN/CLOSE] ボタンを押すとディスク情報を読み込み、総トラック数、全演奏時間を表示後ストップ (停止) 状態になります。



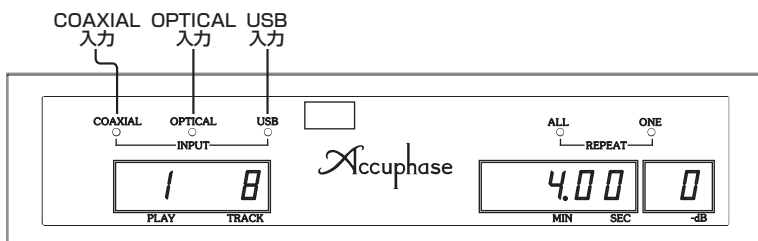
プレイ (演奏) 中のディスプレイ

[TIME] ボタンを押す (リモート・コマンダー)

押すたびに、**曲中経過時間** → **曲中残量時間** → **トータル経過時間** → **トータル残量時間** → **サンプリング周波数** を繰り返し表示します。

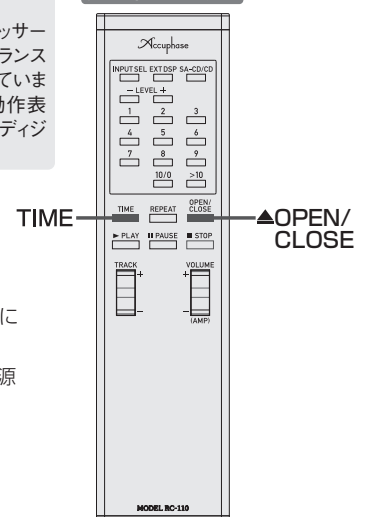


プロセッサ動作 ② [INPUT] ボタンまたは ⑩ [INPUT SEL] ボタンで、「外部入力動作」を選択 (6, 17~19ページ参照)



メモ
外部入力によるプロセッサ動作に変えても、CDトランスポートの動作は継続しています。CDプレーヤーの動作表示も変わらず、そのままデジタル録音が可能です。

リモート・コマンダー



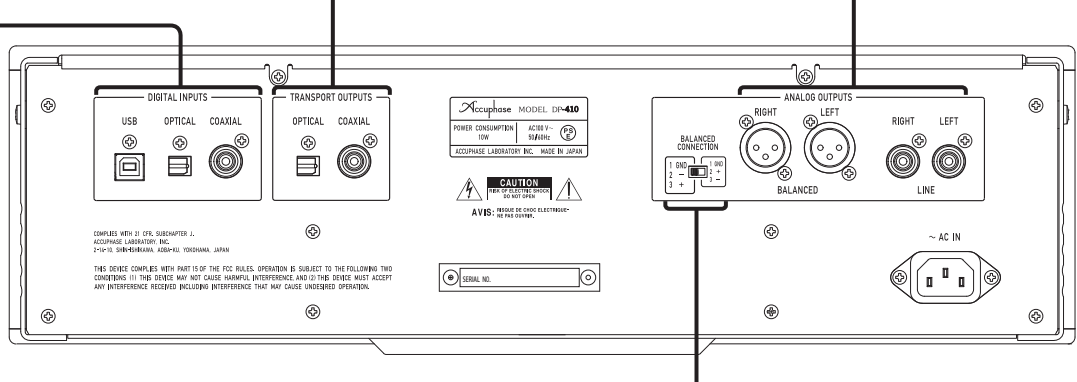
サンプリング周波数の表示例

- 外部入力をロックインしたとき、サンプリング周波数 (kHz) を4秒間表示します。
- リモート・コマンダーの [TIME] ボタンでサンプリング周波数 (kHz) を選択すると表示されます。
- サンプリング周波数表示を選択中にCD関係のキー操作をすると、ディスク情報等の表示に切り替わり、4秒後にサンプリング周波数表示に戻ります。
- サンプリング周波数表示中に本機の電源を切るとサンプリング周波数表示動作はキャンセルされ、次回電源投入時には通常表示に戻ります。



リアパネル(後面)

- 11** DIGITAL INPUTS
デジタル入力端子
USB / OPTICAL / COAXIAL
(4, 9, 17~19ページ)
- 12** TRANSPORT OUTPUTS
トランスポート出力端子
OPTICAL / COAXIAL
(4, 9, 18, 19ページ)
- 13** ANALOG OUTPUTS
アナログ出力端子
BALANCED / LINE
(4, 9, 19, 20ページ)



- 14** BALANCED CONNECTION
バランス出力端子の極性切替スイッチ
(9ページ)

各部の
動作説明

11 DIGITAL INPUTS —
デジタル入力端子 (4, 17~19ページ)

本機をデジタル・プロセッサとして使用する場合の入力端子です。
CDトランスポート、MD、などのデジタル信号を、同軸デジタル・ケーブルや光ファイバーなどで同時に入力することができます。

- COAXIAL : 同軸デジタル・ケーブルで接続
- OPTICAL : 光ファイバーで接続
- USB : タイプBケーブルで「タイプBコネクタ側」を接続
(ケーブルの説明は17ページ)

12 TRANSPORT OUTPUTS —
トランスポート出力端子 (4, 18, 19ページ)

本機のCDトランスポートのデジタル信号を出力します。
MDなどデジタル入力端子を装備したレコーダーを接続して録音することができます。
(DG-48の接続は19ページ参照)

- COAXIAL : 同軸デジタル・ケーブルで接続
- OPTICAL : 光ファイバーで接続
(ケーブルの説明は17ページ)

13 ANALOG OUTPUTS —
アナログ出力端子 (4, 19, 20ページ)

アナログ出力は、アンプのCD、LINEまたはAUXの入力端子と接続します。

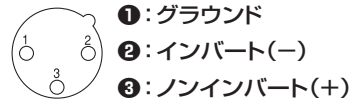
- 出力レベルはリモート・コマンダー RC-110の**17** LEVEL $\left[\begin{array}{c} - \\ + \end{array} \right]$ ボタンで可変できます。(11ページ)

LINE出力ジャック

ピンプラグ付オーディオ・ケーブルでアナログ出力を取り出します。

BALANCED (バランス出力)コネクター

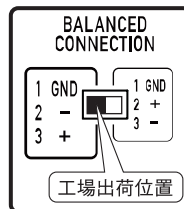
バランス伝送用出力コネクターです。
ピンの極性は、次のようになっています。



- バランス用オーディオ・ケーブルは当社で別売しています。

14 BALANCED CONNECTION —
バランス出力端子の極性切替スイッチ

バランスでプリアンプやプリメインアンプに接続する場合、プリアンプやプリメインアンプ側の入力端子と**2**番/**3**番の極性が同じになるように**13**バランス出力端子の極性を切り替えるスイッチです。

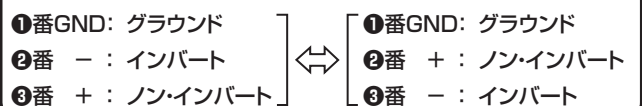


13 バランス出力端子の極性

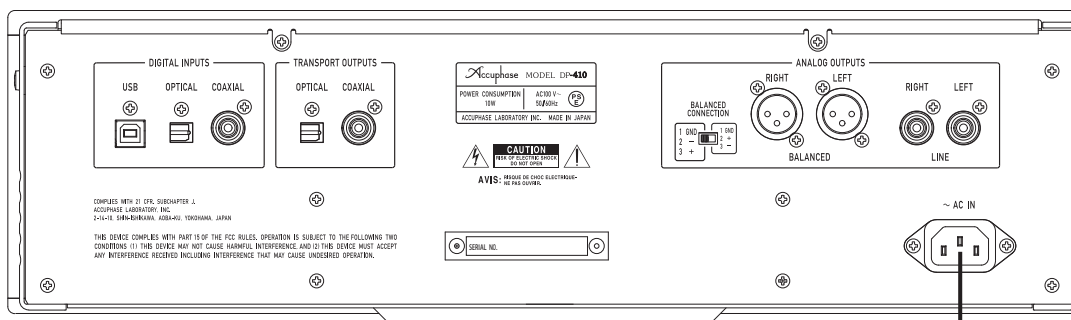
- 工場出荷時のスイッチ位置は、図のように向って左《**2**番+ : ノン・インバート》側です。
- アキュフェーズ製品(一部プロ機器は除く)のバランス入・出力端子は、全て《**2**番+ : ノン・インバート》です。

接続するプリアンプやプリメインアンプのバランス入力端子が、《**2**番+ : ノン・インバート》の場合のみ、スイッチを切り替えてください。

スイッチを切り替えると、バランス出力端子**2**番と**3**番の極性は、次のようになります。



リアパネル(後面)



15 AC電源コネクター
(10ページ)

15 AC電源コネクター

付属の電源コードを接続します。

警告

電源は必ずAC100V家庭用コンセントを使用する。

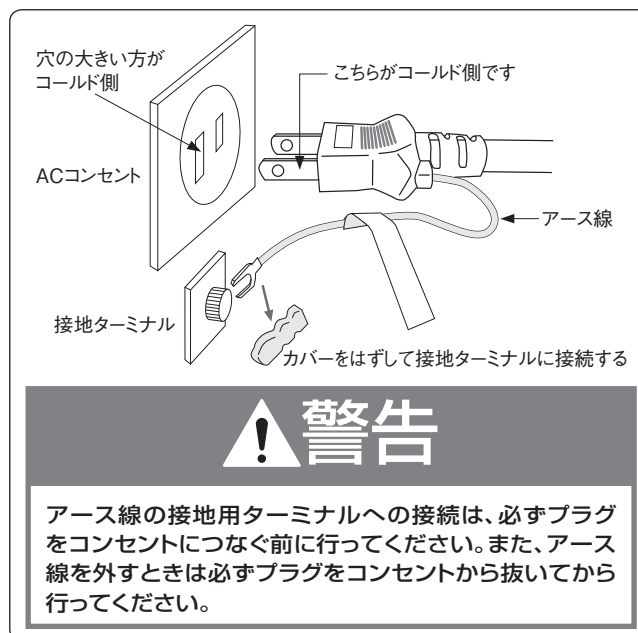
■電源コードに付いているアース線の接続

付属の電源コードには、プラグ側に接地用アース線が付いています。感電防止のため、このアース線を接地用ターミナルに接続すると、より一層安全になります。

接地ターミナルの工事は、電気工事店にご相談ください。

■入・出力端子や、AC電源コネクタ、電源プラグには接点復活剤や導電剤などは絶対に使用しない。

樹脂部が経年劣化で破損したり端子部がショートをおこし、感電や火災あるいは故障の原因になる事があります。(接点復活剤、導電剤使用による不具合は保証外となります。)



■電源コードの極性表示

本機は、トランスの巻き方向、部品の配線など極性を管理して、電源プラグのアース線が出ている方がコールド側になっています。機器の接続を統一したい場合は参考にしてください。

◆注意

- 室内コンセントの極性は一般に、向かって左側(穴が右に比べて大きい)がコールド側です。
- 大地に対する電位は屋内配線の状況によって変化します。このためチェッカーなどを使用して測定した場合、電位が逆表示することがあります。

5. リモート・コントロール

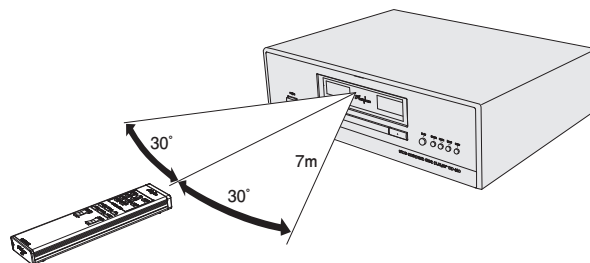
リモート・コマンダーRC-110

本機に付属しているリモート・コマンダーRC-110を使うと、離れたところからDP-410の機能をコントロールすることができます。
(機能の詳細は11ページ参照。)

使用法

リモート・コマンダーの発光部を本体の[9]リモート・センサーに向けて、図の範囲内でお使いください。

- 落としたり、内部に液体をこぼしたりしないようにしてください。
- 直射日光の当たる所や暖房器具のそばなど、温度や湿度の高い場所に置かないようにしてください。



電池について

■電池の交換時期

電池は普通に使って約8カ月は動作しますが、操作距離が短くなってきたら交換時期です。完全に消耗しますと、ボタンを押してもコントロールできなくなります。

- 使用する電池は、単3形を2個、両方とも新しい電池に交換してください。
- 電池を廃棄するときは、地域の環境保全にご注意ください。



警告

乾電池は充電しない。電池の破裂や、液漏れにより、火災やけがの原因となります。



注意

■電池について

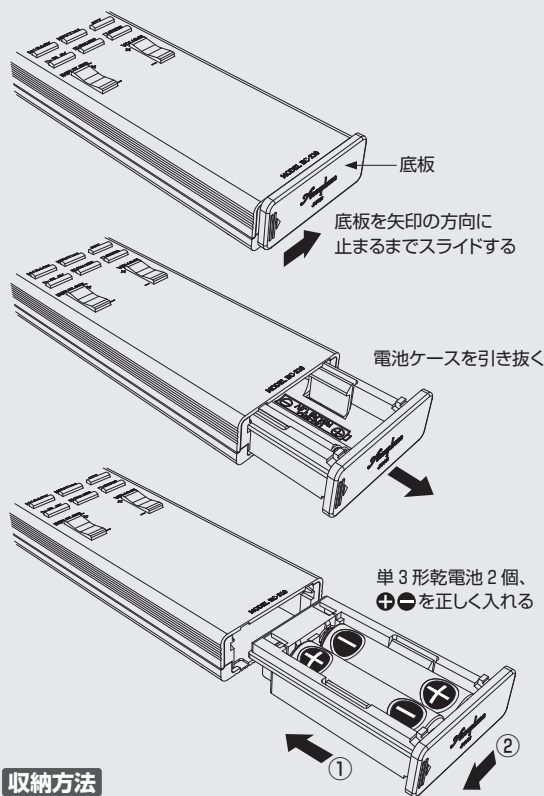
- 乾電池は正しく使わないと、液漏れや破裂などの危険があります。
- 電池の向きはコマンダーのケースに示されている通り、**+**(プラス)、**-**(マイナス)を正しく合わせてください。
- 新しい電池と、1度使用したものを混ぜないでください。
- 種類の違う乾電池を混ぜて使用しない。同じ形状でも、性能の異なるものがあります。
- 長時間にわたりコマンダーを使わないときは、電池を抜いてください。
- 万一、液漏れを起こしたときは、当社品質保証部にご連絡ください。漏れた液体が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

■テレビやインバータ照明等の近くに設置した場合、リモコンの動作が不安定になることがあります。故障ではありません。置く向きを変えたり、お互いに離してお使いください。

■リモコンを落としたり、内部に液体をこぼしたりしないようにしてください。

■直射日光の当たる所や暖房器具のそばなど、温度や湿度の高い場所に置かないようにしてください。

乾電池の交換



収納方法

電池ケースをしっかり押し込んで①
底板を矢印方向にスライドして収納する②

6. ご使用方法

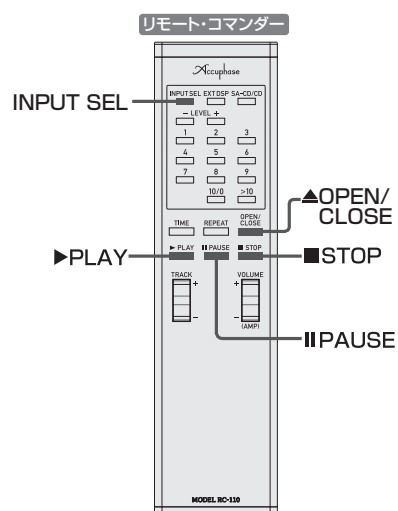
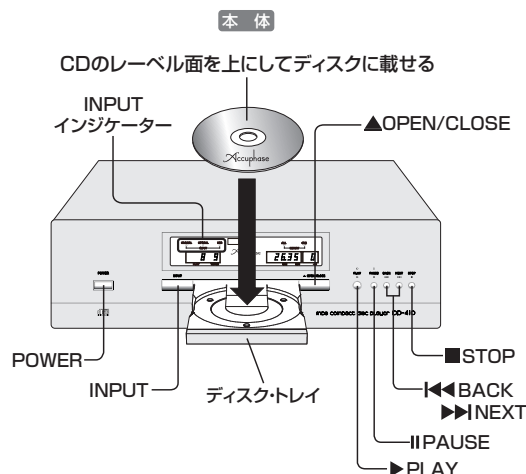
※ 本体の機能 (POWERスイッチを除く) は、リモート・コマンドーの各ボタンでも同様に動作可能です。

※ 本説明書では、「トラック」と「曲」を同義で扱っています。

通常のCDプレーヤーとして使用する場合

CD演奏の基本操作

- 1 POWERスイッチを押し、電源を入れます。
- 2 INPUTインジケータにCOAXIAL, OPTICAL, USBのLEDが点灯している場合には、表示が消えるまで **2** [INPUT] ボタンまたはリモートコマンドー RC-110の **16** [INPUT SEL] ボタンを押します。
(6ページ参照)
- 3 ▲ [OPEN/CLOSE] ボタンを押して、ディスク・トレイを出します。
- 4 レーベル面を上にして、ディスクをトレイにのせます。
- 5 ▶ [PLAY] ボタンを押すとディスク・トレイが閉じて、第1曲目から演奏がはじまります。
- 6 最終トラックの演奏が終了すると、STOP状態になります。
- 7 ▲ [OPEN/CLOSE] ボタンを押して、ディスク・トレイを出します。ディスクを取り出したあと、ディスク・トレイは必ず閉じておきます。



演奏中の基本操作

- 演奏停止(ストップ) ■ [STOP] ボタン
- 演奏を一時停止(ポーズ) || [PAUSE] ボタン ([PAUSE] LED点灯)
- 一時停止をやめて演奏再開 ▶ [PLAY] ボタンまたは || [PAUSE] ボタン ([PAUSE] LED消灯)
- 1曲先に進む ▶▶ [NEXT] ボタン
- 演奏中の曲の先頭または1曲前に戻る ◀◀ [BACK] ボタン
- ディスクを取り出す ▲ [OPEN/CLOSE] ボタン

いろいろな演奏方法

途中で演奏を中止するには

◎一時停止は

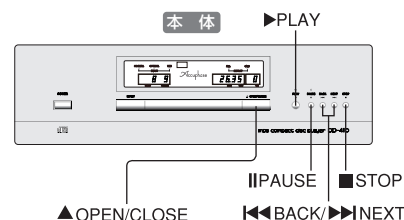
|| [PAUSE] ボタンを押します。《PAUSE》LEDが点灯して演奏は停止します。一時停止を解除するときは、再度 || [PAUSE] ボタンまたは ▶ [PLAY] ボタンを押してください。停止したところから演奏が始まります。

◎演奏を止めるには

■ [STOP] ボタンを押します。この場合は、続きの演奏はできません。

◎ディスクを取り出すときは

演奏中でも、▲ [OPEN/CLOSE] ボタン(本体、リモート・コマンダー)を押します。



演奏を直ちに開始しないとき

◎ディスクをトレイに載せてから、▲ [OPEN/CLOSE] ボタンを押すと、ディスク・トレイが閉じてスタンバイ状態になります。

◎ディスクをトレイに載せて || [PAUSE] ボタンを押すと、ディスク・トレイが閉じて1曲目の演奏待ち(PAUSE)の状態になります。

トラック(曲)を指定して演奏

◎PLAY(演奏)中やSTOP(停止)状態のとき、選曲ボタンを使うと、指定したトラックの先頭から演奏を開始することができます。

トラックの番号を直接押して演奏します。

● 1 ~ 9 押したボタンのトラック番号から演奏開始

● 10/0 10曲目を演奏

● 11曲目以降の演奏は (>10) ボタンを使用します

例： 15曲目の演奏…… (>10) → 1 → 5
30曲目の演奏…… (>10) → 3 → 10/0

※ディスクに入っているトラック数以上の選曲はできません。

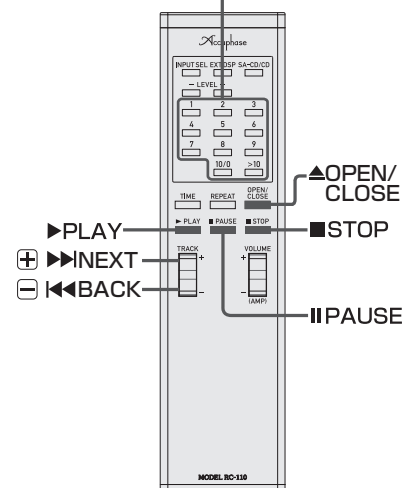
※総トラック数が、99曲以上選曲はできません。

◎演奏中に、◀◀ [BACK] / [NEXT] ▶▶ ボタンを使って、任意のトラックを選択します。

◎PAUSE(一時停止)のとき、◀◀ [BACK] / [NEXT] ▶▶ ボタンを使って、任意のトラックを選択し、▶ [PLAY] ボタンを押します。

メモ

● PAUSE(一時停止)中に選曲ボタンを押すと曲の先頭でポーズ(一時停止)になります。



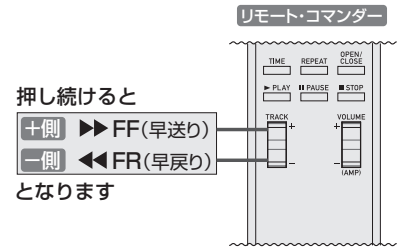
トラック(曲)の途中の演奏したい部分を探す

PLAY(演奏)中に探す

- ◀◀ [BACK] / [NEXT] ▶▶ ボタンを押し続けると ◀◀ [FR] (早戻し) / [FF] ▶▶ (早送り) となります。

再生音が断続的に聴こえますので、希望の部分に近づいたら、ボタンを離します。その部分から演奏を始めます。

メモ STOP中にFF/FR機能は使用できません。



注意

[NEXT] ▶▶ ボタンを押し続けて最後の曲の終わりまで進むと、PAUSE状態になります。

リピート(繰り返し)演奏

ディスク全曲/1曲の繰り返し演奏ができます。

ディスク全曲の繰り返し演奏：全曲リピート

- [REPEAT] ボタンを1回押して、▶ [PLAY] ボタンを押す。再生中でも可能です。
- 《REPEAT ALL》LEDが点灯し、全曲リピートが始まります。

通常の再生の場合 …………… 全曲を順番に再生

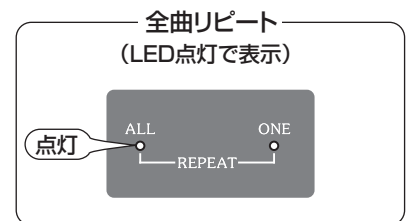
全曲リピートを中断するには…

- [STOP] ボタンを押す。
- 再び▶ [PLAY] ボタンを押すと、全曲リピートが始まります。

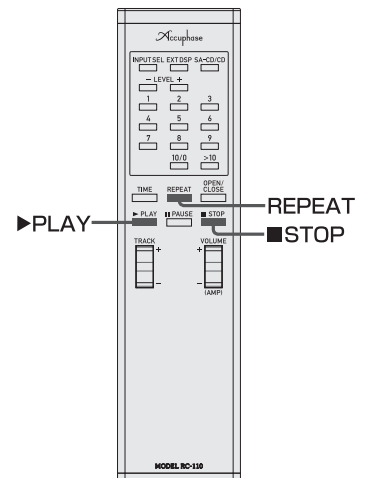
通常の演奏に戻すには…

- [REPEAT] ボタンを2回押します。
- REPEAT LEDが消灯し、全曲リピートは解除されます。

メモ：押すごとにLEDインジケータが切り替わります



リモート・コマンダー



ご使用方法

1曲の繰り返し演奏：1曲リピート

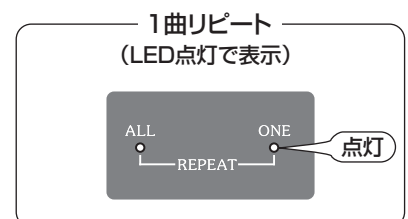
- 繰り返したいトラックの演奏中に、REPEAT ONE LEDが点灯するまで [REPEAT] ボタンを繰り返し押します。
- REPEAT <ONE> LEDが点灯すると、1曲リピートが始まります。

1曲リピートを中断するには…

- [STOP] ボタンを押す。
- 再び繰り返したいトラック演奏を開始すると、1曲リピートが始まります。

通常の演奏に戻すには…

- [REPEAT] ボタンを1回押します。
- REPEAT LEDが消灯し、1曲リピートは解除されます。



タイマー演奏

タイマー演奏： **P-on** 設定すると、ディスクをセットしておけば電源が入ると自動的に演奏が始まります。市販のオーディオ・タイマーとの組み合わせにより、ご希望の時間に演奏を開始することができます。

※出荷時の初期設定は、**P-oF** に設定されています。

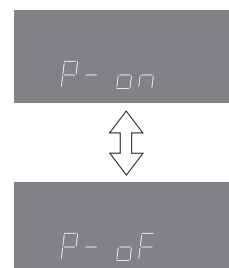
タイマー演奏をするには: **P-on** 設定

[STOP] ボタンを約2秒間押しつづけるとディスプレイ部に **P-on** と表示されます。

タイマー演奏を止めるには: **P-oF** 設定(初期設定)

再度 **[STOP]** ボタンを約2秒間押しつづけると、**P-oF** と表示され通常の使用状態になります。

このように、**[STOP]** ボタンにより **P-on** と **P-oF** が交互に設定されます。



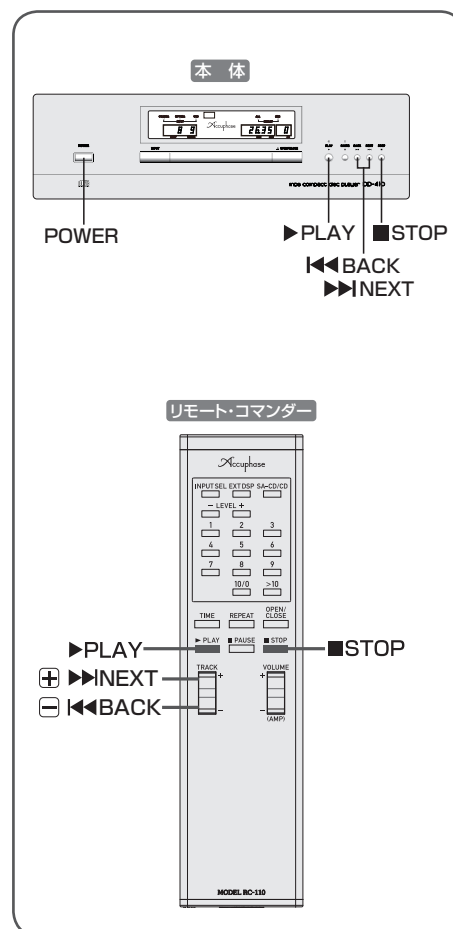
P-on 設定されたら

- ① **P-on** 表示後、**[BACK]** / **[NEXT]** ボタンにより希望のトラック番号を指定します。
- ② または **[PLAY]** ボタンを押して演奏を始めるか、またはトラック指定後電源をOFFにするとその番号が記憶されます。
- ③ 次の電源スイッチON時には、ディスクをセットしておけば指定したトラック番号の最初から演奏を開始します。

- ◎ 記憶されたトラック番号は、新たに **P-on** 表示して指定するまで変更されません。
- ◎ 選曲ボタンからのトラック番号の指定は記憶されません。
- ◎ 番号指定しないで電源OFFにすると、次の電源スイッチON時には、1番目のトラックより演奏を始めます。
- ◎ 番号記憶後は、通常の方法により演奏をお楽しみください。
- ◎ 番号指定後ディスクを交換してもその番号より演奏します。ただし、記憶された番号がそのディスクの総トラック数より大きい場合は、最後のトラックより演奏します。
- ◎ リピートの“ALL”と“ONE”は、電源OFF直前の状態が記憶されます。

P-oF 設定にすると

P-oF 表示にしますと通常の動作状態です。
電源ON時に、ディスクが入っていれば内容を読み込んで演奏待機状態になりますが、演奏は開始しません。



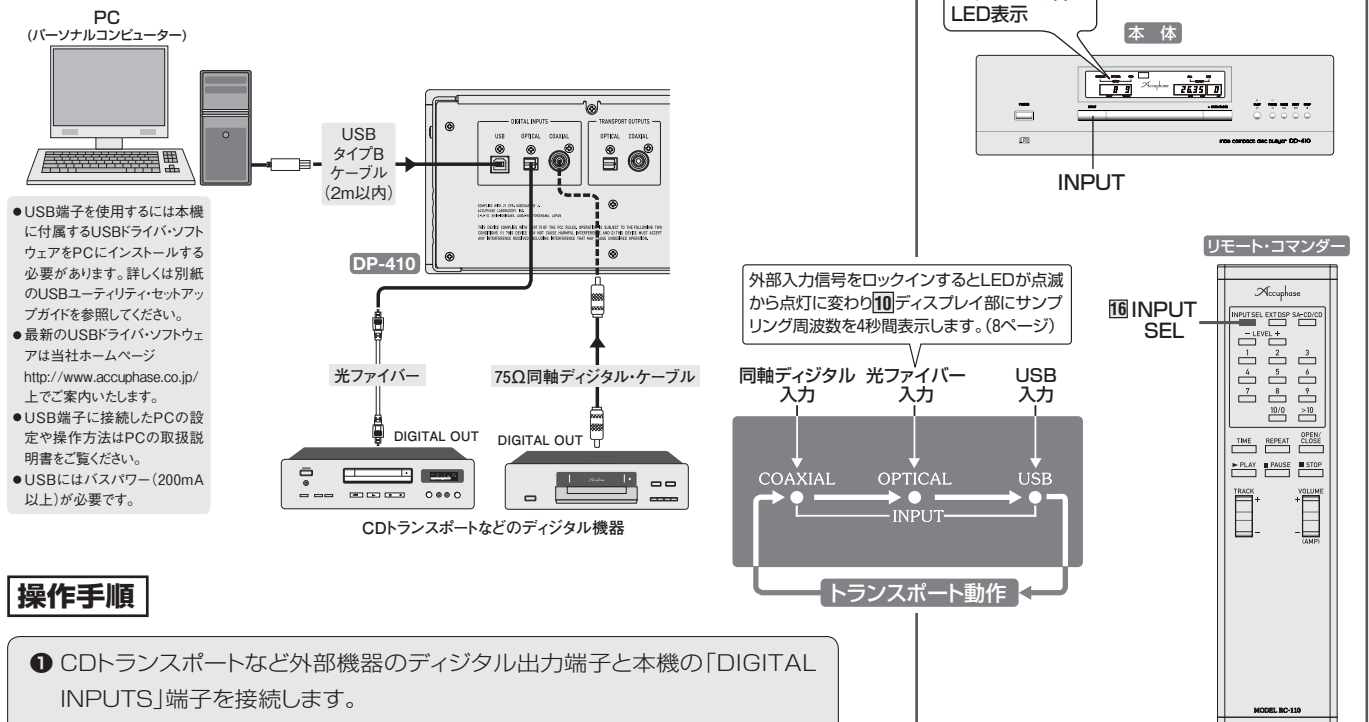
外部機器を接続してデジタル・プロセッサ部を活用

デジタル入力でCDトランスポート、MDなどを再生

CDトランスポート、MDなどをデジタル信号で入力、外部デジタル機器を接続して演奏することができます。

接続例

ソース側デジタル機器の「DIGITAL OUT」 ⇔ 本機の「DIGITAL INPUTS」



操作手順

- 1 CDトランスポートなど外部機器のデジタル出力端子と本機の「DIGITAL INPUTS」端子を接続します。
- 2 各機器の電源を入れます。
- 3 **2** INPUT ボタンまたはリモート・コマンダーの **16** INPUT SEL ボタンで外部入力機器の選択 (COAXIAL、OPTICAL、USB) します。
- 4 外部接続機器を操作して演奏をお楽しみください。

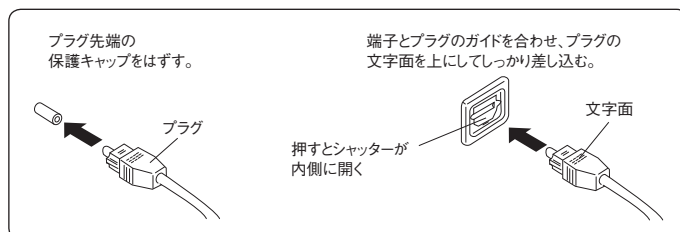
接続ケーブル

COAXIAL

ピンプラグ付同軸デジタルケーブルで接続してください。

OPTICAL

JEITA規格の光ファイバー接続用端子です。



USB

USBケーブルのタイプBコネクタ側を接続してください。

注意

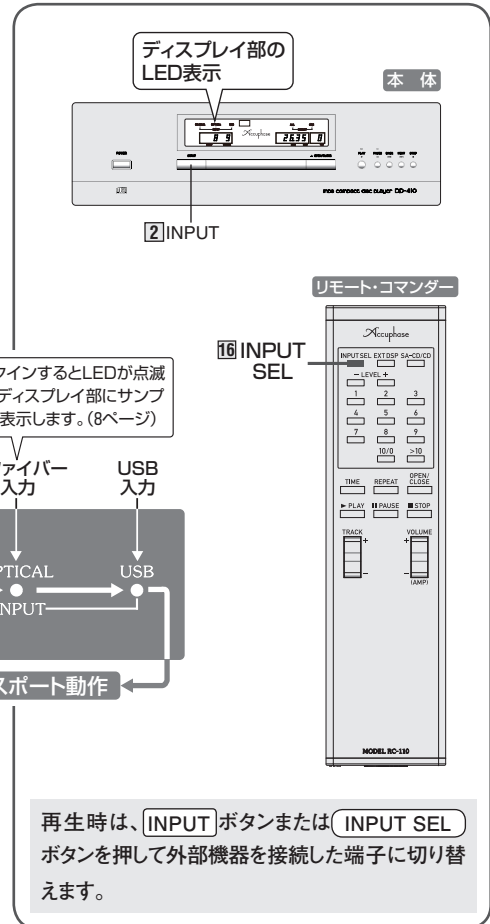
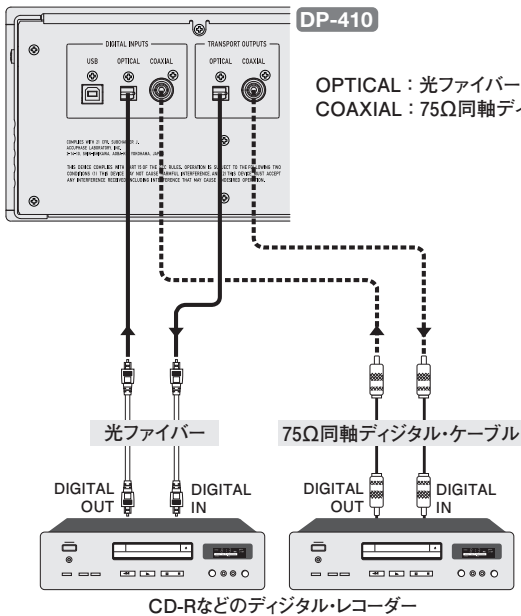
- 光ファイバーは、曲げなどの力には非常に弱く、断線する場合があります。長さに余裕があるときは、セットの後ろで丸く (直径10cm以上) 束ねておいてください。決して強く曲げないでください。切断、再加工などはできません。
- 光ファイバーは、コア (芯材) に光信号が通ります。プラグの先端のキズ、汚れ、レセプタクルの中の異物は最大敵です。使用しない時には、必ずキャップを付けておいてください。
- 光ファイバーの抜き差しは、プラグをしっかり持って行ない、ファイバーを引っ張らないように注意しましょう。

デジタル・レコーダーで録音・再生をする場合

デジタル・レコーダーを接続して、本機からCD録音とレコーダーの再生ができます。

- 注意**
- 「TRANSPORT OUTPUTS」端子には、本機のCDデジタル(トランスポート)信号が出力され録音可能になります。
 - 「INPUT」ボタンまたは「INPUT SEL」ボタンでプロセッサー外部入力に切り替えても本機のCDトランスポート動作は継続していますから、そのまま録音可能です。

接続例 本機の「DIGITAL INPUTS」端子 ⇔ レコーダーの「DIGITAL OUT」
 本機の「TRANSPORT OUTPUTS」端子 ⇔ レコーダーの「DIGITAL IN」



再生:プレイバック

2「INPUT」ボタンまたは16「INPUT SEL」ボタンで、接続したソース(入力端子)に合わせ、レコーダーを再生状態にすれば再生音を聴くことができます。

録音:レコーディング

操作手順

- 本機でCDを再生して、スピーカーから音を出して確認します。
- このデジタル信号が各「TRANSPORT OUTPUTS」端子からレコーダーへ出力されます。
- デジタル録音は、レコーダー側で録音側のサンプリング周波数(CDの場合: 44.1kHz)を設定(変換)します。
- レコーダーの録音をスタートすれば、本機のCDトランスポートのデジタル録音ができます。
- 「TRANSPORT OUTPUTS」の各端子には、同一信号が出力されますので、接続してあるレコーダー(但し、録音側のサンプリング周波数に注意)で同時に録音することができます。

注意 録音中にプロセッサー外部入力に切り替えても、そのまま本機のCDトランスポートの録音を継続することができます。ただし、アナログ出力(スピーカーからの音)は外部接続機器の出力になります。

注意

- * デジタル録音の場合、SCMS(シリアルコピー・マネージメント・システム)により、一度デジタル録音で作成したソースは他のDATやMDIにデジタルで録音することはできません。
- * デジタル → デジタルでの録音の場合、ソース側とレコーダー側相互のサンプリング周波数が合わないと録音できません。

DG-58との接続例

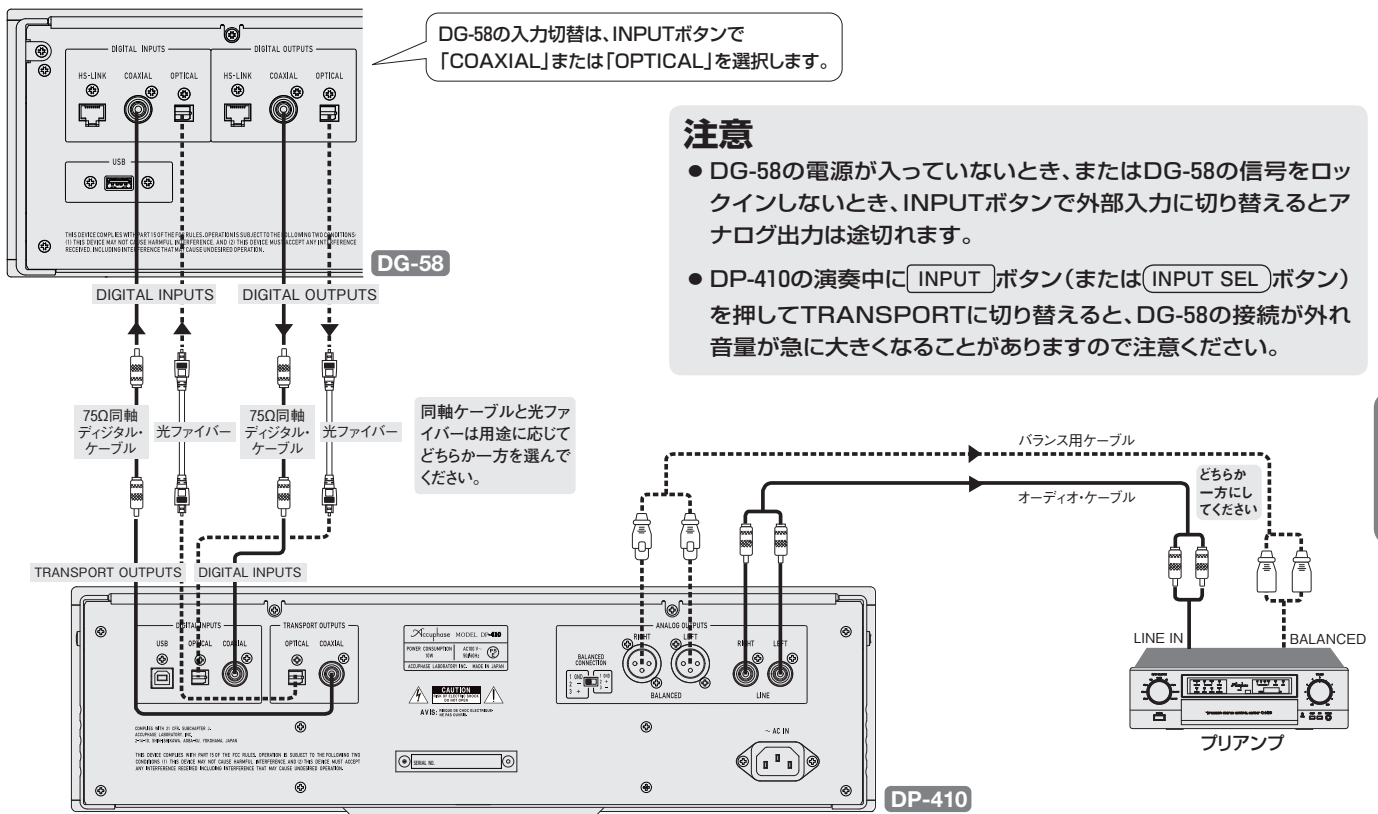
デジタル・ヴォイシング・イコライザー DG-58の接続

「TRANSPORT OUTPUTSとDIGITAL INPUTS」の間にDG-58を接続すれば、本機のCDトランスポートの信号をデジタルで音場補正をすることができます。DG-48も同様に使用可能です。

- 詳しい動作等は、DG-58の取扱説明書を参照してください。

接続例 … DP-410に直接DG-58を接続する場合

本機の「TRANSPORT OUTPUTS」端子 ⇔ DG-58の「DIGITAL INPUTS」
 本機の「DIGITAL INPUTS」端子 ⇔ DG-58の「DIGITAL OUTPUTS」

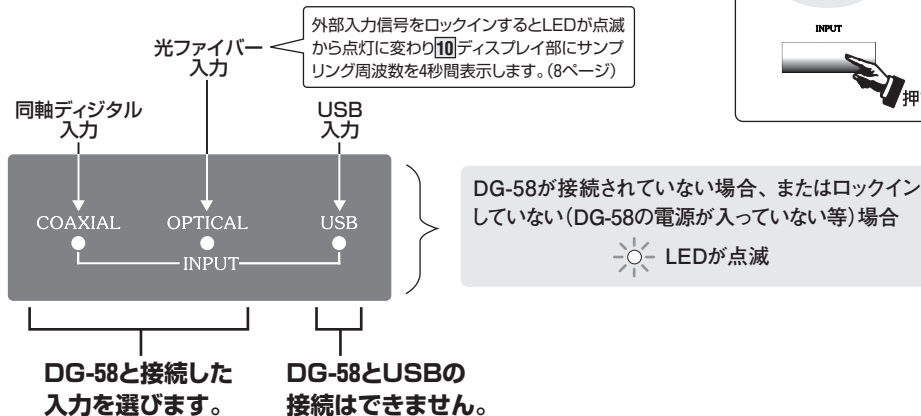


ご使用方法

DP-410とDG-58を接続した場合のLED点灯例

INPUTボタンまたはINPUT SELボタンでDG-58挿入の切り替えをします。

接続例の場合はCOAXIALもしくはOPTICALを選択します。



入力の切り替え



7. 保証特性

[保証特性は JEITA 測定法 CP-2402A に準ずる]

[測定用ディスク：JEITA CP-2403A 準拠]

CDトランスポート部

フォーマット	: CD標準フォーマット
量子化数	: 16ビット
サンプリング周波数	: 44.1kHz
エラー訂正方式	: CIRC
チャンネル数	: 2チャンネル
回転数	: 500~200rpm (CLV)
線速度	: 1.2~1.4m/s一定

読み取り方式

非接触光学式読み取り

レーザー

GaAlAs(ダブルヘテロ接合可視光半導体レーザーダイオード)

トランスポート出力レベル

COAXIAL (IEC 60958)	0.5Vp-p 75Ω
OPTICAL (JEITA CP-1212)	光出力 -21 ~ -15dBm
	発光波長 660nm

デジタル・プロセッサ部

デジタル入力

COAXIAL	フォーマット	: IEC 60958準拠
OPTICAL	フォーマット	: JEITA CP-1212準拠
USB	フォーマット	: USB2.0/ハイスピード (480Mbps)準拠

サンプリング周波数 32kHz、44.1kHz、48kHz、88.2kHz、
96kHz、176.4kHz、192kHz
(各16~24bit 2ch PCM)、
(OPTICALは32kHz~96kHz)

D/Aコンバーター

24ビット 4MDS++方式

周波数特性

0.7~50,000Hz +0, -3dB

全高調波ひずみ率 (20~20,000Hz間、24bit入力時)

0.001%以下

S/N

114dB以上

ダイナミックレンジ

110dB以上(24bit入力)

チャンネル・セパレーション

110dB以上

出力電圧・出力インピーダンス

BALANCED	: 2.5V 50Ω 平衡 XLRタイプ
LINE	: 2.5V 50Ω RCAフォノジャック

出力レベル・コントロール

0dB~-60dB (デジタル方式)1dBステップ

全 体

電 源

AC100V 50/60Hz

消費電力

10W

最大外形寸法

幅465mm × 高さ151mm × 奥行393mm

質 量

14.0kg

付属リモート・コマンダー RC-110

リモコン方式 : 赤外線パルス方式
電 源 : 単3形乾電池2個使用
最大外形寸法 : 50mm×192.5mm×20.5mm
質 量 : 215g(電池含む)

●本機は「JIS C-61000-3-2 適合品」です。

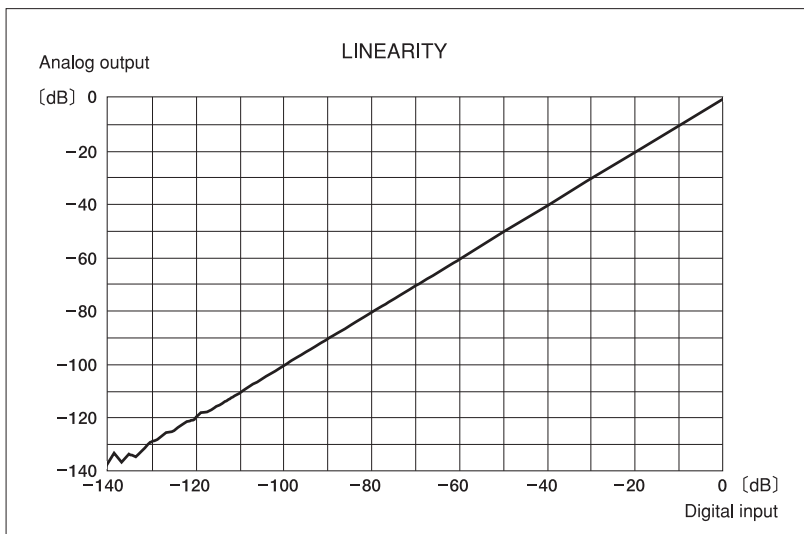
JIS C-61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性-第3-2部：限度値-高調波電流発生限度値(1相あたりの入力電流が20A以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

著作権について

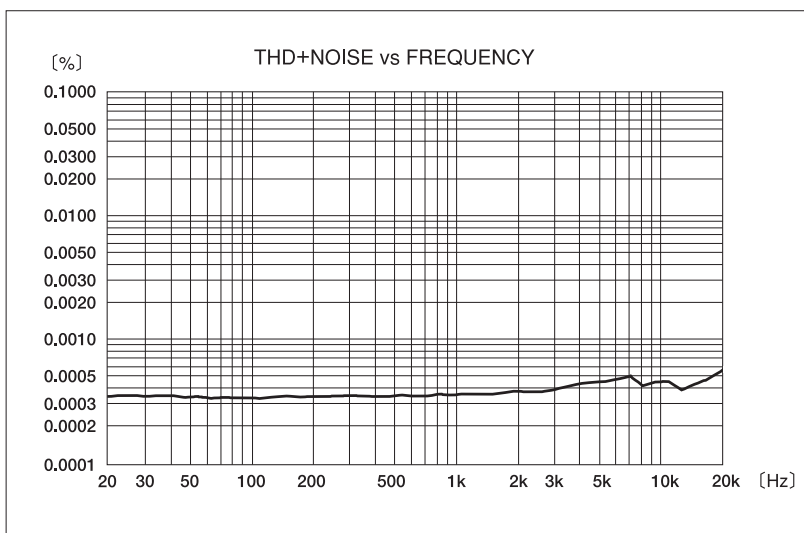
放送や録音物(CD、テープなど)から、あなたが録音したものは、個人として楽しむ以外、権利者に無断で使用することはできません。音楽作品は著作権法により保護されています。

*本機の仕様・特性および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

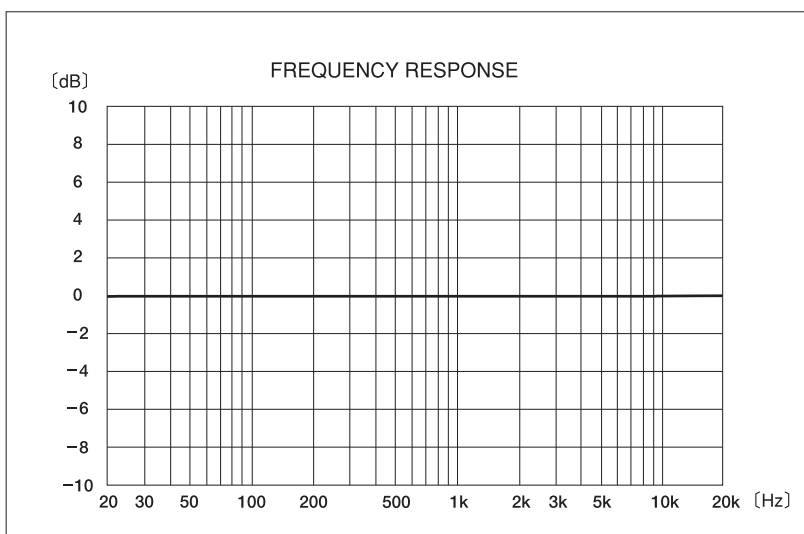
8. 特性グラフ



リニアリティ
(デジタル入力対アナログ出力)

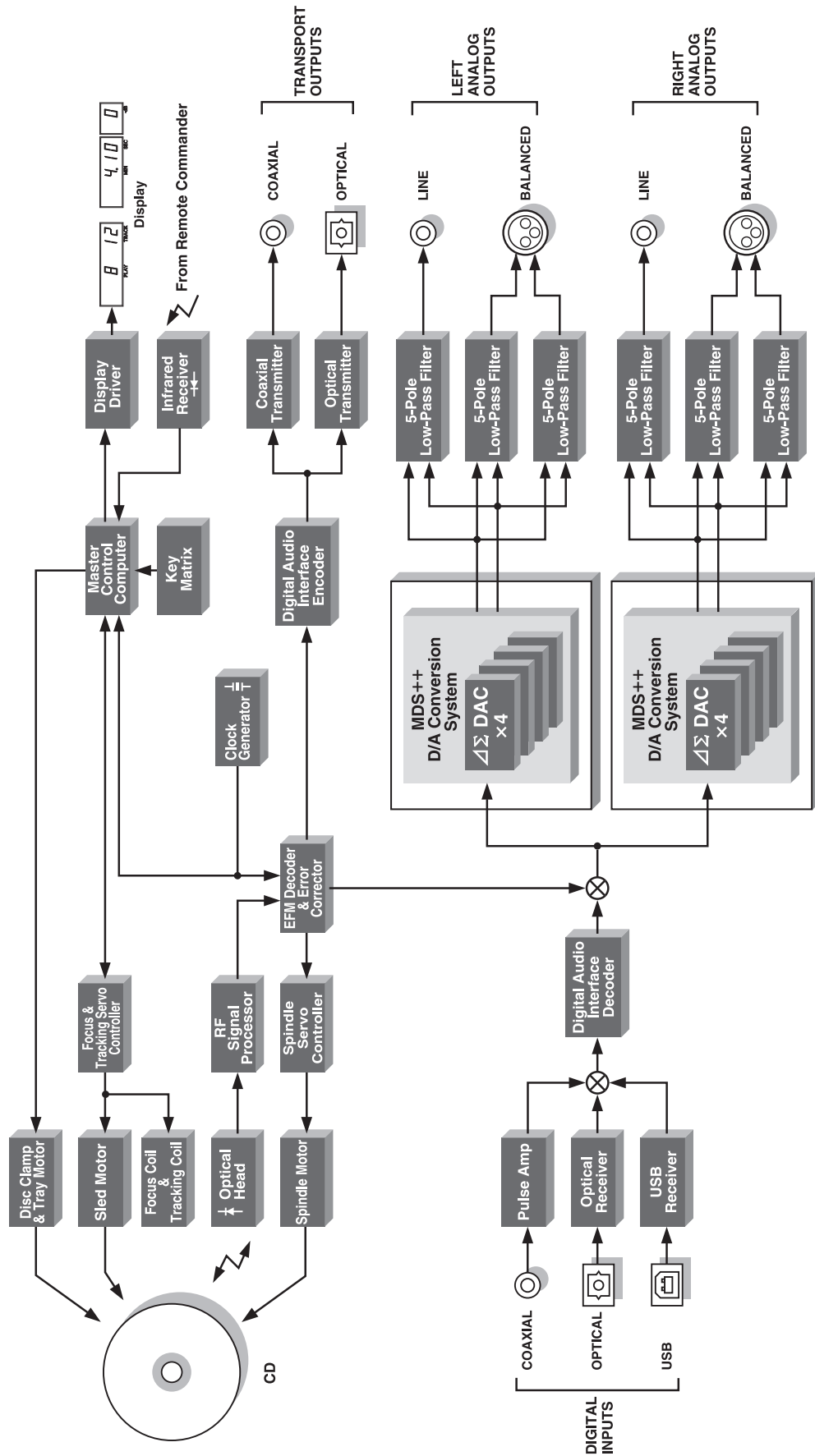


全高調波ひずみ率
(雑音含む) 対周波数特性



周波数特性

9. ブロック・ダイアグラム



特性グラフィック
ブロック・ダイアグラム

10. 故障かな?と思われるときは

故障かな?と思われるときは、修理を依頼される前に、下記の項目をチェックしてください。
これらの処置をしても直らない場合には、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。

⚠注意：接続するときは、必ず各機器の電源を切る。

電源が入らない(ディスプレイが点灯しない)

- 電源コードが抜けていませんか。(本体側、コンセント側確認)
- 電源コードが傷んでいませんか。
……………傷んでいる場合は危険ですから当社品質保証部に連絡ください。

電源スイッチを入ると演奏が始まる

- タイマー演奏に設定されている。(16ページ参照)

演奏が始まらない

- ディスクが正常に装着されていますか。(2ページ参照)
- 低温時であれば、結露の可能性もあります。(3ページ参照)
- CDプレーヤー動作ですか。
……………**INPUT** ボタンまたは **INPUT SEL** ボタンで確認します。
- 本機で再生できるディスクですか。
……………CDマークの有無を確認します。(3ページ参照)

音が出ない。またはレベルが低い

- **INPUT** ボタンまたは **INPUT SEL** ボタンで外部機器のプロセッサー入力を確認します。
- 出力コードが正しくアンプに接続されていますか。
- アンプ側のスイッチ類やボリュームの確認をします。
- リモート・コマンダーの **LEVEL** ボタンで出力レベルを確認します。(11ページ参照)
- 本機で再生できるディスクですか。(3ページ参照)

音が途切れたり雑音が出る。 演奏途中でディスクが止まる

- ディスクに反り、汚れ、傷はありませんか。
- 接続コードのプラグの汚れ、接触を点検します。
- 光ファイバーはJEITA規格品ですか。
(規格に適合しないものは正常な動作ができません)

片側から音が出ない

- 出力コードを左右入れ替えます。
┌ 同じ側から音がでない …… アンプ側に原因が考えられます。
└ 左右逆になる ……………… 本機に原因が考えられます。

リモート・コマンダーで操作できない

- 電池は入っていますか。
- 電池の極性は⊕(プラス)と⊖(マイナス)が正しく合っていますか。(12ページ参照)
- 新しい電池に交換してみましょう。
- 受光部付近に障害物はありませんか。
- テレビやインバータ照明等の近くに設置していませんか。お互いに離すか、置く向きを変えてみます。
- 電池ケースの接点は汚れていませんか。

外部接続機器の音が出ない

- 外部機器入力になっていますか。(6ページ参照)
……………**INPUT** ボタンまたは **INPUT SEL** ボタンで確認します。
- 周波数ロックはされていますか。(6ページ参照)
……………光ファイバー、同軸それぞれのケーブルをお確かめください。

11. アフターサービスについて

保証書

- 保証書は本体付属の『お客様カード(保証書発行はがき)』の登録でお送りいたしますので、「お客様カード」を **当社品質保証部に必ずご返送ください。**
- 『お客様カード』の『お客様情報欄』には付属の『目隠しシール』を貼ってご返送ください。
- 保証書の記載内容により、**本機の保証期間はご購入日から3年間です。**
- 『品質保証書』の無い場合は、**全て有償修理となりますので、『お客様カード』は必ずご返送ください。**
- 『お客様カード』をご返送いただく時、ご購入日等を記入して頂きますが、下記の場合には登録(『品質保証書』の発行が)できないことがあります。
 - *ご記入頂いた購入日と弊社からの製品出荷日とが大きく異なる場合。
 - *『お客様カード』が返送されないまま、転売(インターネット等)された場合。
 - *長期間『お客様カード』の返送がない場合。
- オプション類には『お客様カード』を付属していませんが、製品出荷日をご購入日として弊社が登録し、『5年間保証』とさせていただきます。

保証期間が過ぎてしまったら

- 修理によって性能を維持できる場合には、ご希望により有料で修理いたします。
- 補修部品の保有期間は経済産業省指導により、製造終了後8年間となっています。使用期間が相当経過している場合には、当社品質保証部にお問い合わせください。

注意 保証期間以降、長期に渡って安全にご使用いただくために、当社での定期的な点検を行ってください。内容については当社品質保証部にご相談ください。

その他

- 改造されたものは修理ができない場合がありますのでご了承ください。
- 本機の故障に起因する付随的損害(営利的使用に関する諸費用、使用により得られる利益の損失等)については補償できません。
- AC100V以外(海外)では使用できません。
- 保証は日本国内のみ適用されます。
The Accuphase warranty is valid only in Japan.

お問い合わせは

- ご質問、ご相談、当社製品取扱店のご案内などは、下記の当社品質保証部へお願いします。

アキュフェーズ株式会社 品質保証部
〒225-8508 横浜市青葉区新石川2-14-10
TEL 045(901)2771(代表)
FAX 045(901)8995

- 修理のご相談は、お買い求めの当社製品取扱店へお願いします。
- 当社のホームページ上でも修理の問い合わせが可能です。
<http://www.accuphase.co.jp/>

修理依頼の場合には

- “故障かな?と思われるときは”をご確認後、直らない場合には、電源プラグをコンセントから抜き、当社製品取扱店に修理を依頼してください。

次の内容をお知らせください。(保証書参照)

- モデル名、シリアル番号
- ご購入日、ご購入店
- ご住所、氏名、電話番号
- 故障状況:できるだけ詳しく

* 梱包材は、輸送時に必要となりますので、保管しておいてください。

enrich life through technology



ACCUPHASE LABORATORY, INC.
アキュフェーズ株式会社

横浜市青葉区新石川2-14-10
〒225-8508 TEL (045)901-2771(代)
<http://www.accuphase.co.jp/>